

第4回カツオ資源調査・保全分科会議事録

日 時 平成 29 年 9 月 4 日 (月) 12:00 ~ 14:00
場 所 高知大学 地域連携推進センター 2F セミナー室
出席者 受田座長、市川 (事務局) 外 資料 1

- (1) 座長挨拶
- (2) 講師紹介

講師： 東京海洋大学学術研究院海洋環境学部門 宮本 佳則 教授
フュージョン有限会社代表取締役 笹倉 豊喜 氏
味の素株式会社グローバルコミュニケーション部
CSRグループ長 長谷川 泰伸 氏
同シニアマネージャー 太田 史生 氏

【概略】まず宮本先生から「太平洋沿岸カツオ標識放流共同調査」についてご講演頂いた。その概略は以下の通りである。

最初に、本取り組みは「カツオ供給の健全性、信頼性、安全性を確実にするために科学的根拠に基づいた、効率的で信頼性のあるカツオ国際漁業管理の措置の確立に貢献する」こと、また「日本における沿岸・近海カツオ漁業と地域経済の持続性、カツオにかかわる食文化・技術の継承に貢献する」ことを目的に実施されていることが説明された。東シナ海におけるカツオ標識放流調査は味の素と遠洋水研 (現在の国際水研) が 2007 年からダートタグ標識を活用してスタートした。その後、2010 年に掛けて、奄美周辺海域から西日本沿岸へ展開している。2011 年から与那国海域へアーカイバルタグ標識した放流調査が始まった。その後 2014 年から東京海洋大との共同調査となり、アーカイバルタグに加えて新規に開発されたピンガー標識による放流調査が開始され、現在に至っている。カツオに装着する標識は 3 種類ある。

1) ダートタグ標識 2) ピンガー超音波発信機 3) アーカイバルタグ深度水温照度ロガーである。分科会で初めて紹介されたピンガーは小指サイズで個体識別と深度の情報が受信機によってリアルタイムにモニターされる。アーカイバルタグが過去の情報であるのに対して、ピンガーは現在の情報であること、アーカイバルタグは再捕獲の必要があるため、回収率が低い (2%程度) のに対して、再捕獲の必要がないといった特徴を有する。因みに価格はアーカイバルタグが一本 10 万円、ピンガーが 6 万円である。アーカイバルタグ標識の調査結果から、これまでに黒潮に沿って北上する経路と共に、多くの個体が放流周辺海域を中心に移動し、たとえばトカラ海域付近に滞留する傾向があること、またトカラ周辺海域から、宮崎、高知沖へ移動する個体はないことも明らかになった。次にピンガー標識の調査結果が報告さ

れた。ピンガー受信機は与那国島沖に 10 基の観測網を構築し、500 km²を常時観測しているとのこと。そこでの挙動は大変興味深く、カツオは群れで行動すると考えられているが、通常は個体がそれぞれ独立して行動しており、ある時に群れをつくる傾向が認められた。ピンガー受信機の設置は人口漁礁のみならず、漁船の船底にも設置が可能である。したがって操業している漁船の協力が強化されれば、広範囲の観測が可能となる。現在、CRESTの研究調査では、トカラ海域、高知沖への受信機設置を希望しており、高知県の協力をお願いしたいとの要請があった。

続いて笹倉氏から、海外では、サケの調査で日本のスケールと比べて 2 ケタ大きな調査事業が展開されているとの説明があった。

さらに味の素・長谷川氏から、味の素のCSR事業のゴールは「国際的な資源保護のルールができること」であると紹介された。

その後、質疑を行った。その概要は以下の通りである。

○ブイに受信機を設置できるか?⇒YES

○高知県の黒潮牧場、その周辺で操業する 10 トン以下の船に受信機の設置はできる(高知県水産振興部)。潮流が速いので、設置の際のダイバーの危険性を考慮すると、人口漁礁の更新時期に合わせて、設置することを検討してはどうか。

○海と共に山の問題もどこかで議論してほしい。

○ビッグデータ化する必要がある。そのためにはハードのコストがネックになる。受益者の負担も含めて、クラウドファンディングの取組みも必要。

○クラウドファンディングについては、「マイピンガー制度」の導入も面白い。

○CRESTも来年度で終了。機器開発の予算も含めて自立が必要。カツオの調査に関するコンソシアムの立ち上げを計画している。このコンソを活用してスポンサーを集めていく(味の素だけでは無理)。金額的にはNGOオーシャントラッキングネットワークの場合 180 億円の予算規模(宮本先生)。

○SDGsも含めて訴求することが重要(水産についてはSDG14)(長谷川氏)。

○県の黒潮牧場の利用に関して、情報交換の枠組みが求められる。

○乱獲がカツオ資源を枯渇させていることをメディアで発信してもらうことが重要。

○科学的根拠と県民運動との連動をしっかりと。

以上の議論も踏まえて、今後、分科会として、ピンガー標識によるカツオ調査の加速と調査海域の拡大を目的に、①ピンガー受信機の土佐湾沖における人口漁礁・黒潮牧場に設置すること②海域の漁船への設置を図ること③ピンガー標識の個体数の増加を目指すこと、等について具体的な行動を起こすことを検討することになった。その調査を通じて、北緯 20 度以南の熱帯水域と日本近海の北部太平洋エリア間におけるカツオの回遊状況と、熱帯水域におけるカツオ漁獲圧力の日本近海に対する影響などの、我々が鶴首する情報の早期取得を目指していく。その実現に向け

て、クラウドファンディングの立ち上げも具体的に検討していくことにした。なお、次回の分科会（第5回）は10月2日12時から開催すること、これまでの情報を基にして、具体的な提言と行動計画について議論することとして散会した。